

「知」の集積による産学連携推進事業のうちバイオエコノミー推進人材活動支援事業の企画審査について

1 審査の方法

審査は、3の審査基準に基づき、外部有識者による審査委員会で行うものとします。

審査委員の所属及び氏名等は、公表します。ただし、審査は、非公開とし、企画書に記載された個人情報等を保護する観点から、審査内容は公表しません。

2 契約候補者の選定方法

- (1) 書面審査に当たっては、3の審査基準に基づき審査し、審査の結果、平均点が高い企画書の提案者から順に、予算の範囲内で契約候補者を選定します。ただし、当該企画書について審査項目の1つ以上において「E」の評価があった場合、又は平均点が満点の50%を超えない場合は、審査委員会で審議の上、当該企画書の提案者を契約候補者としなないことができるものとします。企画書が一つしかない場合も同様とします。

なお、同じ平均点を得た企画書が複数ある場合の判断基準は、次のとおりとします。

- ① 「A」の獲得数を審査に参加した委員数で割った数（以下「平均数」という。）がより多い提案書の提案者を上位とする。
- ② 「A」の平均数が同数の場合は、「B」の平均数がより多い企画書の提案者を上位とする。
- ③ 「B」の平均数も同数の場合は、「C」の平均数がより多い企画書の提案者を上位とする。
- ④ 「C」の平均数も同数の場合は、審査委員長が上位の提案者を選定する。

また、契約候補者に対し、必要に応じて、事業実施に当たっての留意事項を付す場合があります。留意事項の全部又は一部が実行できないと農林水産省が判断したときは、契約候補者としなないことがあります。

3 審査基準

審査の観点	審査項目	<p style="text-align: center;">審査基準</p> 各審査項目について、次の5段階で審査を行う。 A (10点)、B (7点)、C (5点) D (3点) 及び E (0点) 配点が20点の審査項目は、A (20点)、B (14点)、C (10点)、D (6点)、E (0点) とする。 ワーク・ライフ・バランス等の推進についての取組状況については、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業として、※(①～③)の法令に基づく認定を受けているかで判断する。	
整合性 (20点)	活動の目的と内容 (10点)	事業実施責任者(プロジェクトリーダー)及びプロジェクトチームが取り組むテーマと取組内容は「知」の集積と活用を場を活用したものとなっているか。	A 十分合致している。 B 概ね合致している。 C 合致していると言い難い面もあるが、不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E 不十分なものとなっている。
		事業実施責任者(プロジェクトリーダー)及びプロジェクトチームが取り組む内容は、事業の趣旨に合致したものとなっているか。	A 十分合致している。 B 概ね合致している。 C 合致していると言い難い面もあるが、不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E 不十分なものとなっている。
必要性 (24点)	活動の目的と内容 (10点又は7点)	事業実施責任者(プロジェクトリーダー)及びプロジェクトチームの取組内容は、バイオエコノミーの推進に繋がることが期待できるものとなっているか。	A 非常に期待できるものとなっている。 B 十分期待できるものとなっている。 C 十分期待できるものとはなっていないが不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E あまり期待できない。
		「統合イノベーション戦略 2020 (令和2年7月17日閣議決定)」で示された地域バイオコミュニティの形成及び連携した、又は形成及び連携が期待できる内容となっているか。	該当する場合は、7点を加算する。

		農林水産省がグローバルな研究体制の構築として進めているアグリバイオ拠点と連携した、又は連携が期待できる内容となっているか。	該当する場合は、7点を加算する。
実現性 (40点)	事業の実施体制 (20点)	事業実施責任者(プロジェクトリーダー)及びプロジェクトチームは、事業を実施するのに必要な体制となっているか。	A 非常に十分なものとなっている。 B 十分なものとなっている。 C 十分なものとはなっていないが、不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E 不十分なものとなっている。
		事業実施責任者(プロジェクトリーダー)の事業遂行能力は、これまでの業績等から十分なものとなっているか。	A 非常に十分なものとなっている。 B 十分なものとなっている。 C 十分なものとはなっていないが、不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E 不十分なものとなっている。
有効性 (20点)	事業の内容 (20点)	事業実施責任者(プロジェクトリーダー)及びプロジェクトチームの取組内容は、バイオエコノミーの推進に資することが期待できるものとなっているか。	A 非常に期待できるものとなっている。 B 十分期待できるものとなっている。 C 十分期待できるものとはなっていないが不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E あまり期待できない。
効率性 (20点)	経費の配分等 (10点)	経費の見積は妥当なものとなっているか。	A 非常に十分なものとなっている。 B 十分なものとなっている。 C 十分なものとはなっていないが、不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E 不十分なものとなっている。
		経費の配分について効率的な事業を実施するために十分なものとなっているか。	A 非常に十分なものとなっている。 B 十分なものとなっている。 C 十分なものとはなっていないが、不十分とは認められない。 D やや不十分なものとなっている。 E 不十分なものとなっている。

<p>ワーク・ライフ・バランス等の推進についての取組状況 ※ (5点)</p>	<p>男女共同参画等への取組は十分なものとなっているか。 (5点)</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスを推進する企業として、※(①～③)の法令に基づく認定を受けているかで判断し、①～③のうち複数の認定等に該当する場合は、最も高い点数により加点を行う。該当しない場合は加点なし。</p>
---	---	--

(参考)

※ ワーク・ライフ・バランス等の推進についての取組状況については、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業として、以下(①～③)の法令に基づく認定を受けているかで判断し、①～③のうち複数の認定等に該当する場合は、最も高い点数により加点を行う。

また、共同事業体で応募した場合は、代表者及びその構成員の中で複数の認定等に該当する場合は、最も高い点数により加点を行う。

① 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(以下「女性活躍推進法」という。)に基づく認定(えるぼし認定企業)

- ・プラチナえるぼし A(5点) ※1
- ・3段階目 B(4点) ※2
- ・2段階目 C(3点) ※2
- ・1段階目又は行動計画 E(1点) ※2、※3

※1 女性活躍推進法第12条の規定に基づく認定

※2 女性活躍推進法第9条の規定に基づく認定

なお、労働時間等の働き方に係る基準は満たすこと。

※3 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定義務がない事業主(常時雇用する労働者の数が300人以下のもの)に限る(計画期間が満了していない行動計画を策定している場合のみ)。

② 次世代育成支援対策推進法に基づく認定

- ・プラチナくるみん認定企業 B(4点)
- ・くるみん認定企業(新基準) C(3点) ※4
- ・くるみん認定企業(旧基準) D(2点) ※5

※4 次世代育成支援対策推進法施行規則等の一部を改正する省令(平成29年厚生労働省令第31号)による改正後の認定基準に基づく認定

※5 次世代育成支援対策推進法施行規則等の一部を改正する省令による改正前の認定基準又は同令附則第2条第3項の規定による経過措置に基づく認定

③ 青少年の雇用の促進等に関する法律に基づく認定

- ・ユースエール認定 C(3点)